

単為結果性ナスに適した主枝仕立法

○古賀武・下村克己・末吉孝行・齊藤猛雄¹⁾
(福岡農総試・¹⁾農研機構野菜茶研)

【目的】

福岡県における促成ナス栽培は、単位面積あたりの労働時間が約2,000時間と長く、規模拡大が進まないこと等から、栽培面積は減少傾向にある。この解決のためには、労働時間の約30%を占める着果促進処理の省略が可能な単為結果性ナスの利用が有効である。しかし、単為結果性ナスは慣行品種と比べ分枝性が低く、収量が劣ることが指摘されている¹⁾。

そこで、独)野菜茶業研究所が育成した単為結果性ナス系統を用いて、収量を高めるための主枝仕立法について検討した。

【材料および方法】

独)野菜茶業研究所育成の単為結果性ナス系統‘安濃交6号’と、本県主要品種である‘筑陽’を供試した。試験区は、‘安濃交6号’が、垂直2本仕立区(主枝2本, 2条植, 株間60cm), 垂直3本仕立区(主枝3本, 2条植, 株間90cm), 垂直4本仕立区(主枝4本, 2条植, 株間120cm)およびV字4本仕立区(主枝4本, 1条植, 株間60cm)の4区, ‘筑陽’がV字4本仕立区の1区を設けた。各試験区とも1区につき4株供試し, 2反復とした。定植は2003年10月20日に行い, ハウス栽培で, 最低温度12℃に設定した。元肥としてN-P-Kをそれぞれ30kg/10a, 追肥としてかん水と同時に培養液を施用した(N-P-K: 27kg-28kg-12kg/10a)。収穫調査は12月から翌年6月まで行い, 果重120gを目安とした。

【結果および考察】

第1表に示すように, ‘安濃交6号’の主枝摘心日は垂直2本仕立区で最も早く, V字4本仕立区で最も遅かった。開花数および着果率は試験区間での差はなかったが, ‘筑陽’と比べると少ないし低かった。総収量はいずれの試験区とも‘筑陽’より低く, 同じV字4本仕立区では, ‘筑陽’の78%であった。‘安濃交6号’の総収量を試験区間で比較すると, 垂直2本仕立区が最も高く, ‘筑陽’の94%であった。商品果率は試験区間で差がなかった。面積あたりの整枝作業時間は垂直2本仕立区で最も長かった。収量あたりの整枝作業時間は試験区間で差がなかった。また, 垂直2本仕立区の整枝作業時間は‘筑陽’のV字4本仕立区より5.4分/m², 0.5分/kg長かったが, その値は‘筑陽’に要する着果促進処理時間よりかなり小さかった。

以上の結果より, 単為結果性ナス系統‘安濃交6号’の収量は‘筑陽’より劣るものの, 主枝仕立法によって差が認められ, 主枝垂直2本仕立区が最も優れることが明らかとなった。今後, さらに収益性の向上を図るためには, 収量とともに品質の優れる単為結果性ナス新品種の開発が必要であると考えられる。

引用文献

- 1) 齊藤猛雄・吉田建実・森下昌三. 2005. 育種面から見た省力・快適化への研究戦略. 野菜茶業研究集報: 29-35
- 2) 門馬信二. 1996. 単為結果性ナスの特性と今後の利用. 施設園芸38(3): 30-33

第1表 主枝仕立法と生育, 収量, 品質および整枝作業時間

品種・ 系統名	主枝 仕立法	主枝 摘心日	開花数 (個/m ²)	着果率 (%)	総収量 (kg/m ²)	商品果率 (%)	整枝作業時間 ¹⁾ (分/m ²) (分/kg)	
安濃 交6号	垂直2本	2/12	126ab ²⁾	87.4b	15.4b	86.9a	41.2a	2.7a
	垂直3本	2/27	111b	89.2b	14.2c	87.2a	36.4b	2.6a
	垂直4本	3/8	105b	91.1b	13.6cd	85.5a	32.3c	2.4ab
	V字4本	3/14	105b	88.7b	12.7d	86.3a	32.2c	2.5a
筑陽	V字4本	2/29	136a	97.2a	16.3a	81.2a	35.8b	2.2b

注) 1) 誘引、摘心、芽整理、摘葉作業に要した時間。なお, ‘筑陽’は, 着果促進処理としてさらに約33分/m²が必要²⁾。

2) 異符号間に5%水準で有意差あり(Tukeyの多重比較検定による)。